

# ヘリ輸送・備蓄庫「想定外ゼロ」へ

このため、全国18カ所に「非常用備蓄倉庫」を設置。ヘリ運航会社3社と契約を結び、「想定外ゼロ」を目標に、非常時でも被災地の各施設に食材搬送できる体制構築として、食材提供会社の事業継続計画の確認や、輸出品も含めた代替商品の選定などバックアップ体制を確保している。

## 物資運搬

大震災以降、災害時のヘリコプターによる輸送体制を整えてきたが、東日本大震災ではヘリコプターの着陸場所を確保できなかった事例があった。

# 南海トラフ地震を想定した病院食運搬訓練 (日清医療食品の事例)



## 耐震リング

- 建物の倒壊を防止
- 補強工事のコスト低減
- メンテナンス不要



## 耐震シェルター j.Pod

- 必要なスペースだけ耐震化できる
- 開口型の構造なので災害時に閉じ込められない
- 家屋を解体せずはめ込むので工期が短く安価

# 対策は民間主導で進化している



# 「阪神」教訓 震度7に対応

阪神大震災の木造建築の被害を教訓に、大阪市の一級建築士らが開発したのが「耐震リング」とモノコック構造の「j.Pod」。いずれも阪神大震災級の震度7のゆれに対応できる。耐震リングは、建材の接合部分で地震のゆれで建物に変形しやすい「仕口」に設置する耐震補強材。木造住宅や文化財の耐震補強に事例が多い。「j.Pod」は間伐材などをモノコック構造に組み立て、構造体そのものを既存の建築物にはめ込むことで耐震補強する。地震の被害を受けても生存空間を確保でき、津波からの避難を可能にする。

## 耐震化

阪神大震災の木造建築の被害を教訓に、大阪市の一級建築士らが開発したのが「耐震リング」とモノコック構造の「j.Pod」。いずれも阪神大震災級の震度7のゆれに対応できる。耐震リングは、建材の接合部分で地震のゆれで建物に変形しやすい「仕口」に設置する耐震補強材。木造住宅や文化財の耐震補強に事例が多い。「j.Pod」は間伐材などをモノコック構造に組み立て、構造体そのものを既存の建築物にはめ込むことで耐震補強する。地震の被害を受けても生存空間を確保でき、津波からの避難を可能にする。

# 水害・土砂災害 食い止める

## 堤防・防潮堤

東日本大震災や西日本豪雨の防潮堤・堤防復旧工事、南海トラフ地震対策の耐震補強工事などに適用。施工は無振動・無騒音で杭上の機械の幅のスペースだけで済むため、住宅街や道路、鉄道脇の工事でも影響は最小限に抑えられる。図は空港の護岸工事をイメージ。関西国際空港のように沈下する地盤でも、鋼管を継ぎ足しながらかさ上げできるという。

技研製作所(高知県)が開発した「インプラント工法」は地中深く打ち込んだ鋼管杭や鋼矢板を壁状に設置し津波など水害や土砂災害を食い止める。



## 地域で取り組み 被害回避

自主避難計画

最近の災害では、自主避難計画をつくり訓練をしていた地域で被害を免れるケースが増えてきた。自主避難計画づくりは住民が地域の災害の地理的特性や歴史を学習し、行政や防災研究者の指導のもと取り組んでいる。三重や和歌山、高知など津波被害が想定される沿岸部や群馬、埼玉、大阪など内陸部では河川対策、北九州市のような人口100万都市でも地区ごとの取り組みが進む。



## 被災者の意見生かした缶詰

備蓄品

南海トラフ地震対策に取り組む高知県黒潮町の缶詰製作所は7大アレルギー不使用の防災缶詰と、普通ゴミとして処理できる非常用トイレ「ほっ！トイレ」(錠剤投入式、製造元エクセルシア)をセットにした商品を開発した。缶詰は東日本大震災の被災者からの意見を生かし、地場産の食材を使用した日常食とし精神安定に寄与する甘味も。セットには水、アルファ化米、地場産の塩などもある。



## 被災地の医療人材を活用

医療支援

岡山県の国際医療NGO「AMDA」は医療機関や自治体、企業と連携し被災地の医療人材を活用する災害医療機動チームを創設した。被災し活動できない医療機関が再起できなくなることを防ぐため、被災地の医療者も医療行為が行える健診・調剤車両を中心とした医療班と宿泊・給水・炊き出し・燃料・電源車両を編成。ライフラインが途絶した被災地で活動を早期に開始することを目指す。